

長野市総合計画審議会 作業部会 市民フォーラム 21

第7回 資料集

資料1		
第四次長野市総合計画 後期基本計画に係る指標の設定方針		1
資料2		
第四次長野市総合計画 後期基本計画 策定工程表(大綱策定後)		2
資料3		
総合計画策定に向けての市民アンケート集計結果(最終)		3
資料4		
平成22年度ふるさとNAGANO応援団意見交換会 要旨		6
資料5		
包括連携協定高等教育機関 連携協議会 要旨		10
別冊資料1		
第四次長野市総合計画 後期基本計画 施策の目標及び主な取組について		
別冊資料2		
第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱		
別冊資料3		
第四次長野市総合計画 後期基本計画策定のためのインターネットを活用した市民意識調査 報告書		

平成23年2月

第四次長野市総合計画 後期基本計画に係る指標の設定方針

企画課

1 趣旨

まちづくりの目標を市民と行政が共有し、市民にまちづくりの方向性をわかりやすく伝えるとともに、市民がまちづくりの進捗状況を把握・評価することで市民の声を反映しつつ、市政の発展を実現するため、第四次長野市総合計画 後期基本計画において指標を設定するものです。

2 設定方針

後期基本計画において、指標は基本施策ごとに設定することとし、基本施策の方針（目指すもの）を市民と行政が数値等で共有できるよう次の視点から設定することとします。

視点1 基本施策の方針に沿ったものであること 視点2 継続的に把握できるものであること
 視点3 客観的で信頼できるものであること 視点4 市民にわかりやすいものであること

3 指標項目と目標の設定（指標項目の関係（イメージ）参照）

指標は、アンケート指標及び基本施策指標とし、平成28年度末に達成しようとする目標を設定します。

（1）アンケート指標

基本施策に関する市民の思い（評価）を把握するために、アンケート指標を設定します。

アンケート指標の内容は、本市が取り組んだ施策の成果ができるだけ反映されるよう工夫することとします。

（2）基本施策指標

本市が取り組んだ施策の成果を検証するために、基本施策指標を設定します。基本施策指標は、原則として、成果で設定します。

指標項目の関係（イメージ）

概念	後期 基本計画	説 明	例1	例2
目標	基本施策	政策を達成するための取組の方向性を示したもの	高齢者の社会参加の促進	産業の集積と工業の活性化
	基本施策 の方針	基本施策の目指すもの	高齢者が持てる力に応じて、それぞれの経験と知識をいかしながら、地域の中で積極的に社会的役割を果たすことができ、生きがいの持てる活力あるまちを目指します。	ものづくり産業の基盤強化や先端産業の育成、企業の競争力向上等を支援し、特色ある産業の集積と工業の高付加価値化を目指します。
目標 値	アンケート 指標	アンケートにより、基本施策に関する市民の思い（評価）を数値で示したもの	高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境がある	工業や製造業に活気がある
	基本 施策 指標	成果 実績	長野市をどんな状態にするのか、市民にどんな影響をもたらすのか等について、基本施策の到達点を数値で示したもの 長野市が施策等に取り組むことで、得ようとする実績を数値で示したもの	元気（自立）高齢者の割合 製造品出荷額 生きがいづくり講座年間受講者数 産業フェアへの出展企業数
手段	活動指標	基本施策の実現に向け、長野市が何にどれだけ取り組むのか（人・物・金等）を数値で示したもの	生きがいづくり講座年間開催数	産業フェアへの出展企業依頼数

※活動指標は設定しません。

4 主な変更点（参考）

基本施策に、「アンケート指標」と「基本施策指標」の2つの指標を設定することで、市民の思い（評価）と市が取り組む施策の相関関係を把握することができるようになります。また、基本施策指標は原則として成果で設定することとします。

第四次長野市総合計画 後期基本計画 策定工程表(大綱策定後)

資料2

* 日付は予定です。

←→ : 作業部会で協議

⇔ : 審議会で協議

▭ : 各担当課で整理

項目	年度		平成22年度						平成23年度															
	月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
総合計画審議会		9					15			31					25			29						20
作業部会			22 23 24				26 27 28			27 30			27 29 30			23 24 25 26								
1 前期基本計画の検証(報告)										時点修正														
2 後期基本計画大綱(案)																								
①基本施策(名称)																								
②基本施策方針																								
③現況と課題																								
④施策(名称)																								
3 中間答申(案)																								
①施策の目標																								
②施策の主な取組																								
③指標																								
④図表																								
⑤後期基本計画の目標																								
⑥重点施策																								
4 答申(案)																								
①まちづくり意見等公募(パブコメ)																								
②市民アンケート																								
③答申(案)																								

総合計画策定に向けての市民アンケート集計結果(最終)

長野市企画政策部企画課

このアンケートは、第四次長野市総合計画後期基本計画の策定に当たり、市民の皆さんの率直な意見を伺うために、平成22年7月から11月まで、市が主催する会議や支所等の窓口で配布・実施したものです。

アンケートは長野市が将来どんなまちになってほしいかについて、17項目の選択肢から、5つ以内で選ぶ方法で実施しました。結果は、次のとおりです。

回答者の状況

区分	居住地区	回答数	男女別			年代別							構成比
			男性	女性	無回答	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
1 市街地	第一～第五、芹田、古牧、三輪、吉田、安茂里	388	230	119	39	17	18	38	39	149	98	29	18.5%
2 市街地周辺	古里、柳原、浅川、大豆島、朝陽、若槻、長沼、豊野	603	339	190	74	5	30	55	97	252	108	56	28.8%
3 犀南	篠ノ井、川中島、更北	368	194	144	30	13	16	26	67	150	73	23	17.6%
4 松代・若穂	松代、若穂	164	90	54	20	8	12	9	20	70	26	19	7.8%
5 中山間地域	小田切、芋井、七二会、信更、戸隠、鬼無里、大岡、信州新町、中条	526	305	141	80	10	15	50	103	164	121	63	25.1%
6 その他	市外、無回答等	47	7	27	13	14	5	6	10	1	0	11	2.2%
計		2,096	1,165	675	256	67	96	184	336	786	426	201	100.0%
構成比			55.6%	32.2%	12.2%	3.2%	4.6%	8.8%	16.0%	37.5%	20.3%	9.6%	100.0%

※区分については、「まちづくりアンケート」の区分によるものです。

将来のまちづくりへの市民の思い(地域別、年齢区分別回答数)

市民の皆さんに次の17の設問に対し、5つ以内で選択していただきました。

表1

設問項目 【選択肢】		属性区分	全体	居住地区					年齢 2区分		年齢 3区分		
				市街地	市街地 周辺	犀南	松代・若穂	中山間	50歳代 以下	60歳代 以上	20歳代 以下	30歳代 40歳代	50歳代 以上
1	安心して子育てのできるまち	保健・福祉	1,146	205	350	224	93	242	441	613	53	198	803
2	健康長寿のまち	保健・福祉	678	145	188	100	61	167	180	424	19	69	516
3	環境と共生するまち	環境	773	152	215	133	61	186	272	431	23	108	572
4	防災・防犯により安全安心に暮らせるまち	防災・安全	1,215	241	384	212	83	268	361	757	33	141	944
5	生涯学習や子どもたちの教育環境の充実したまち	教育・文化	650	124	195	121	42	152	211	383	16	107	471
6	歴史文化遺産を継承するまち	教育・文化	450	108	92	71	73	95	136	266	12	54	336
7	オリンピックの資産をいかしたスポーツの盛んなまち	教育・文化	272	63	76	67	16	44	91	161	7	50	195
8	観光などによる賑わいのあるまち	産業・経済	564	131	137	96	66	119	210	318	26	86	416
9	地域の特徴をいかした農林業の盛んなまち	産業・経済	623	66	163	100	56	224	198	365	22	72	469
10	付加価値の高い産業(商工業)の集積するまち	産業・経済	299	57	95	45	26	70	68	201	1	26	242
11	国際交流の盛んなまち	教育・文化	122	35	37	20	7	19	46	70	7	19	90
12	公共交通機関により快適に移動できるまち	都市整備	804	141	211	157	57	225	275	474	28	104	617
13	道路網など都市基盤の整備されたまち	都市整備	588	100	189	85	29	182	178	368	11	70	465
14	高度情報化社会に対応したまち	都市整備	176	31	37	28	7	69	57	103	3	26	131
15	住民が主体となってまちづくりを進めるまち	行政経営	533	85	162	103	53	125	124	359	9	41	433
16	効率的な行財政運営による自立したまち	行政経営	392	84	120	76	24	84	104	248	6	42	304
17	その他		38	9	11	6	2	10	13	24	0	6	31
		計	9,323	1,777	2,662	1,644	756	2,281	2,965	5,565	276	1,219	7,035

※属性について無回答のもの等があるため、全体と内訳が一致しない場合がある。

将来のまちづくりへの市民の思い(地域別、年齢区分別構成比)

実数は、表1を参照してください。

表2

設問項目 【選択肢】		属性区分	全体	居住地区					年齢 2区分		年齢 3区分		
				市街地	市街地 周辺	犀南	松代・若穂	中山間	50歳代 以下	60歳代 以上	20歳代 以下	30歳代 40歳代	50歳代 以上
1	安心して子育てのできるまち	保健・福祉	12.3%	11.5%	13.1%	13.6%	12.3%	10.6%	14.9%	11.0%	19.2%	16.2%	11.4%
2	健康長寿のまち	保健・福祉	7.3%	8.2%	7.1%	6.1%	8.1%	7.3%	6.1%	7.6%	6.9%	5.7%	7.3%
3	環境と共生するまち	環境	8.3%	8.6%	8.1%	8.1%	8.1%	8.2%	9.2%	7.7%	8.3%	8.9%	8.1%
4	防災・防犯により安全安心に暮らせるまち	防災・安全	13.0%	13.6%	14.4%	12.9%	11.0%	11.7%	12.2%	13.6%	12.0%	11.6%	13.4%
5	生涯学習や子どもたちの教育環境の充実したまち	教育・文化	7.0%	7.0%	7.3%	7.4%	5.6%	6.7%	7.1%	6.9%	5.8%	8.8%	6.7%
6	歴史文化遺産を継承するまち	教育・文化	4.8%	6.1%	3.5%	4.3%	9.7%	4.2%	4.6%	4.8%	4.3%	4.4%	4.8%
7	オリンピックの資産をいかしたスポーツの盛んなまち	教育・文化	2.9%	3.5%	2.9%	4.1%	2.1%	1.9%	3.1%	2.9%	2.5%	4.1%	2.8%
8	観光などによる賑わいのあるまち	産業・経済	6.0%	7.4%	5.1%	5.8%	8.7%	5.2%	7.1%	5.7%	9.4%	7.1%	5.9%
9	地域の特徴をいかした農林業の盛んなまち	産業・経済	6.7%	3.7%	6.1%	6.1%	7.4%	9.8%	6.7%	6.6%	8.0%	5.9%	6.7%
10	付加価値の高い産業(商工業)の集積するまち	産業・経済	3.2%	3.2%	3.6%	2.7%	3.4%	3.1%	2.3%	3.6%	0.4%	2.1%	3.4%
11	国際交流の盛んなまち	教育・文化	1.3%	2.0%	1.4%	1.2%	0.9%	0.8%	1.6%	1.3%	2.5%	1.6%	1.3%
12	公共交通機関により快適に移動できるまち	都市整備	8.6%	7.9%	7.9%	9.5%	7.5%	9.9%	9.3%	8.5%	10.1%	8.5%	8.8%
13	道路網など都市基盤の整備されたまち	都市整備	6.3%	5.6%	7.1%	5.2%	3.8%	8.0%	6.0%	6.6%	4.0%	5.7%	6.6%
14	高度情報化社会に対応したまち	都市整備	1.9%	1.7%	1.4%	1.7%	0.9%	3.0%	1.9%	1.9%	1.1%	2.1%	1.9%
15	住民が主体となってまちづくりを進めるまち	行政経営	5.7%	4.8%	6.1%	6.3%	7.0%	5.5%	4.2%	6.5%	3.3%	3.4%	6.2%
16	効率的な行財政運営による自立したまち	行政経営	4.2%	4.7%	4.5%	4.6%	3.2%	3.7%	3.5%	4.5%	2.2%	3.4%	4.3%
17	その他		0.4%	0.5%	0.4%	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.5%	0.4%
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

XX.X% : 設問ごとに最も数値の高かった属性を示したものの

平成 22 年度ふるさと NAGANO 応援団意見交換会 要旨

1. 日 時 平成 22 年 11 月 26 日（金）15 時 30 分から 17 時 30 分
2. 会 場 都道府県会館 4 階 410 会議室
3. 内 容 長野市全般について
4. 出席者 別紙出席者一覧（別紙）のとおり
5. 発 言 以下のとおり
 - 地上デジタル放送の周波数で放送に使用しないエリアを地域活性化のために使う、ホワイトスペース特区という総務省が推進している政策を是非長野市にも取り組んでいただきたい。今放送に使っていない帯域をある地域で限定的に使用する。例えば善光寺のその歴史的な言い伝えや七福神のルート図、寄ってほしいそば屋や酒屋等、全部揃えて豊富な情報を観光客に提供する。携帯をお持ちでない方のため、街中のどこかに電子掲示板を置いておけばそれを見ながら観光することができる。外国の方に対し、外国の言葉で表示することもできるし、外国人誘致にも有効である。これまで周波数は有限の資産ということで、一般に民間レベルに開放するというアイデアはなく、画期的な話であり、活用しない手はない。長野市は歴史的なものが豊富であり、お酒にしても、食べ物にしても、素晴らしいものがあるのどこにあるのか現在は分かりにくいのだが、そういったものを観光客に情報提供するというのが一つのアイデア。次に、商店街や大学、観光等を組み合わせると、色々なビジネスが見込める。今回、総務省はこの実施によって 9 兆円ぐらいの経済効果を見込んでいる。これから取り組んでいくに当たっては、長野市には総務省の出先機関である信越総合通信局があり、出先機関が近いというのは非常に有利らしい。そういう意味で、長野市は良いポジションにあると思う。

外国を含む様々なところから観光客が来られるが、付加価値のある情報を提供することによって更なる観光客誘致が見込まれる。今まで素通りしていたような商店街等にもお客が立ち寄るようになる。併せて、このビジネスを推進していくとなると、ビジネスチャンスも広がる。また、信州大学教育学部・工学部の若い人たちのアイデアを活用し、色々なことを実験してみたらいいのではないかと。ソフト面で付加価値を追加し、魅力を何倍にも増大できるのではないと思う。
 - ふるさと納税、ながの夢応援基金は非常にいいことだと思う。育ててもらった地域に対し、応援したいと思う。ただ、あまり宣伝していないせいかな、実はあまり皆さん知らない。書類の手続き等、皆知らない。もっと宣伝したらいいのではないかと。
 - 講演等で地方を回るついでに観光地を見てみると、山奥の街に行っても外国人の観光客が多い。特に中国・韓国・アメリカ・ヨーロッパ等から多く来るが、海外からの観光客が多いところはパンフレット作成等色々努力している。長野市ももっと取り組んでいただきたい。
 - 戸隠が混んでいるという話を聞いて今月の 6 日頃、大昌寺というお寺の奥にある、鬼女紅葉の洞窟に行ってみた。景色が良いが、誰も人がいない。どうして宣伝しないのか。鬼女紅葉伝説は歌舞伎にもなっているし、「紅葉狩」として有名な話である。パワースポットであるが、誰にも会わず、静かに紅葉狩りができてしまうという、誠に残念な話である。パワースポット巡りの一つとして、そちらに回ってもらえばいいのではないかと。もう少しそういう案内があってしかるべきと思う。柵の化石館も見た。非常に内容はいいが、学芸員は一生懸命やっているが、客が少ない。化石館は理系であるし、小・中学校ぐらいで習う「紅葉狩」の話は文系であり、そういったセットで宣伝になるし、パワースポットで戸隠神社から鬼女紅葉の伝説の地へのコースを開発してはいいか。
 - 戸隠の大昌寺では、昔から春と秋にお寺を公開して寺子屋をやっており、すごく頑張って人も集まっている。民間の人が頑張っているのだが、お坊さん一人の力だけではなかなか外に広まっていけない。是非長野市と提携して一緒にやれば、面白いものが生まれるのではないかと。
 - 普段、半分は外国の方とお付き合いであり、是非ふるさと NAGANO 応援団の英語版の名刺が欲しい。毎日海外の大使館の方等とお会いし、個人的に長野のことを PR しており、今年は特に毎月

1回色々な方を長野にお連れしている。英語に置き換えるだけだし、簡単なことだと思う。作っていただければ、活用できる方はたくさんいらっしゃるだろう。あれば何百枚でも配る。

⇒（長野市回答）早急に対応したい。

- ホワイトスペース特区の話は重要、緊急な話だと思う。情報弱者のことを略して「情弱」というが、おそらく今ほど色々な情報が入り乱れて、情報を持っている人といない人の差が露骨に大きい時代はないと思う。情弱の人がとても多く、ごく一部の人が最大限の情報を有している。それは人材を活用するという意味でもったいないことだと思う。例えば田舎に一人で住んでいるおじいちゃんおばあちゃんとか、都市部でも情報の波の中で全く無縁でいる方とか、大量にいると思われる。社会の義務として、情報へのアクセス方法を知っている人が教えるべき。観光客がどこのお蕎麦屋さんが美味しいかすぐ調べられるというのはとても大事なことで、長野市民も例えば最終バスの時間がさっと分かるようなデバイスを緊急に作らないと、高齢社会で一人暮らしの方が増えたりする中で取り残されていってしまうと思う。やさしい社会になることが大事で、観光立市はもちろん大事だが、住んでいる方が毎日安心して暮らせるために情報に接することが重要である。

- 長野と同じオリンピック開催都市でありながら、世界で一番住みやすい都市としてブランド力を獲得しているのがバンクーバーである。長野とどう違うのかというと、現地を訪問して感じたのは、個別の課題が連動して相互に影響を及ぼすようなスキームが組まれている例が多い。

まず、海外に対する発信力では、バンクーバーでは近くにハリウッドがあるということもあるが、海外に発信するためのコンテンツの収録の現場として、テレビや映画、ドラマロケの誘致、映画祭の誘致、クリエイターの育成、特殊な撮影のための規制緩和等、様々あるがそういった努力を都市としてやっている。

長野市には茶臼山動物園があるが、バンクーバーの場合は水族館がある。市民運動が盛んでバックアップしているということもあるのだが、生物多様性に関する教育を行うのと同時に、オーシャンワイズという運動があり、長野であれば野菜などの山に関連した食材になると思うが、生物多様性に配慮した食材であるかどうかの認証を水族館が行う。これに従って、地元の観光資源となるレストランで、メニューにその認証を受けている旨のマークを付けている。都市部で扱っているスーパーの食材についても地元から何キロメートル圏内で取れ、栄養価も高い分、割高であるというフードマイル表示がある。米国資本のウェスティン等のホテルでも、長野であればメトロポリタン等であるが、こういったものに連動している。ホテルのエレベーターのわきに「階段で降りれば何分ぐらいで、エクササイズ効果は何キロカロリーなので、試したら？」といった表示があるなど、ちょっとしたユーモアを交えたものが色々ちりばめられている。またオリンピック開催地なので、ビジネスマンもここに住むと近くにスキー場があり、川でカヤックができるというように、スポーツと経済活動がとてもいいバランスで自然となじんだライフスタイルであるというイメージ戦略がある。

コミュニティの再生については、バンクーバーは治安の良さが断トツである。これは、宿泊してもらおうためのコンテンツ開発、つまり夜遊びが危険でないという状況につながるのだが、これも地元の市民運動で自警団のようなものが形成されているので、ミニスカートをはいた若い女性が深夜0時過ぎでも一人で平気で歩いているという状況が作られている。こういう細かい運動等がすき間を埋める役割を果たして、横に連動していく。

更に、ここは多民族国家で差別が少なく成功している。これはベトナム戦争が起きた時に一定の資産を持っている難民については受け入れを認めるというクレバーな政策を行った結果である。

トータルとして、全体がうまくスキームとして組まれているという印象が非常に強い。スポーツ、魅力的なコンテンツ、それから環境、治安、多民族文化、観光資源。一回観光に行けば住みたいと思わせる力があるので、優秀な方が移民していく。こういった横に連動させていくと面白いことになるのではないかと思う。

- シンプルな疑問だが、4年制大学の誘致とあるが、これは少子化が進んでいく中でペイする算段があって取り組んでいるものなのか。一部現在ヨーロッパで起きている、マイスター、職員育

成では高度な経済活動に脱皮できないので4年制に脱皮させるという、従来ある専門教育を脱皮させるという意味合いの誘致なのか、産業支援・産業振興と人材確保を絡めて、ペイするのかわかりたい。

⇒(長野市回答) 長野市としては昭和40年代からの課題で、現在市内には信州大学の教育学部と工学部、それから清泉女学院大学と長野工業高等専門学校があるが、学生の数は他の市と比較して異常に少ない。市内の大学生は5,000人に満たないぐらいである。金沢や高崎などは1万人以上いる。長野市の人口分布を見ると20歳前後のところはかなり少なくなっている。都市構造で言うと極めて問題がある。確かに大学冬の時代と言われており、特に私立の大学はかなりきつい状態であるが、現在県の短期大学があり、これを4年制に変更してもらうことを県にお願いしている。手元に資料が無いので正確な数字は申し上げられないが、長野市の高等学校卒業生の県外進学がとて高い。東京や東北、名古屋に行くのが当たり前になってしまっている。それぞれの親御さんの負担も大変であり、私どもとしてはできれば県立の4年制大学にしてほしい。そうでなければ、例えば独立行政法人にして長野市も応援をして一緒にやろうということを考えている。

- 現在女性の平均寿命は86歳を超えており、将来のリスクの中で、例えば普通に就職する以外の選択肢、いわゆるキャリアパスがどれだけあるかという点、ほとんどない。例えば九州に、新卒者が大学所在地で起業すると破綻のリスクを避けるため徹底的に支援する事業を実施している大学がある。是非女性のワークライフバランスを考えた経営学をやってはどうか。これは地域のコミュニティビジネスとも密接に関係してくるが、連動させるということを考えてそんな発想もあるのではないかと。

- イメージ戦略をトータルで取り組むことが重要である。現在観光スポットとして取り上げられているところ以外にも素晴らしい場所はいっぱいあり、それを紹介していくべき。私も宣伝しているが、市長がどんどん乗り込んでいって、他にこんな素晴らしいところがあるのでポスターを貼らせてくれと宣伝をして、誘客したらどうかと思う。いいところがたくさんあるのでもったいない。

便利なぐるりん号をよく利用するのだが、市全体のバス経路図は、駅構内の在来線改札口の柱に張ってあるが、ぐるりん号が観光にも便利であることやその時刻表などは表示されていない。それに、表示の場所は、新幹線改札口こそ効果的ではないだろうか。ぐるりん号に乗れば七福神等の観光スポットを回れるんだというような情報をもっとうまく伝えるようにすべき。

イメージ戦略として電気自動車は素晴らしいと思う。電気自動車導入と合わせ、クールビズ、ウォームビズを1年中通して実施する市にしてしまうというように、一つ一つの課ではなくトータルでイメージ戦略を組むべき。デスティネーションキャンペーンも、長野駅にある仮設の紹介所と長野市の観光案内所と別個でやるのではなく、提携して「長野市デスティネーションキャンペーン」という位の意気込みで取り組んでいくべき。

屋代線の自転車乗り込みのテストは、8月1日、2日という夏の一番暑いときに小学生に苦しい思いをさせてやるのではなく、1年間通してやらないと分からない。1年間通してやって、あの辺りは自転車で行けるんだというイメージを作ってしまうべき。トータルでイメージ戦略を立てていくべき。

- 市民会館の問題でも、ある時期が来たら市長がリーダーシップを発揮して進めてもらうのが一番良い。先日、丸山弁三郎(注:第5代長野市長)展を見に行ったが、丸山さんは中央通りの拡張ですごい反対があったがある時に押し切った。時代は違うが、ある時には市長が決断してリーダーシップを発揮してほしい。

(別紙)

1 ふるさとNAGANO応援団について

未来に向かって一層の躍進を願い、市政を応援していただくことを目的に、首都圏で活躍されている長野市に縁のある方々をメンバーとして「ふるさとNAGANO応援団」を設立しています。

メンバーの方々の高度な専門知識、豊かな経験、広い人脈を基に産業振興をはじめとして長野市政全般を応援していただくものです。

年に1回、メンバーと市長との意見交換会を開催し、また必要に応じて長野市内の視察を行うことにより市政に関する様々なご提言をいただいています。

2 ふるさとNAGANO応援団メンバー

(敬称略)

氏名	職業・役職等	出席者
青木 擴憲	株式会社AOKI ホールディングス代表取締役会長	—
荒井 寿光	東京中小企業投資育成株式会社代表取締役社長	—
井浦 秀夫	漫画家	—
猪瀬 直樹	作家、東京都副知事	—
碓井 光明	明治大学大学院法務研究科教授、東京大学名誉教授	—
恩田 乾次郎	株式会社ウイングメディカル代表取締役社長	—
加藤 和年	株式会社ながの東急百貨店顧問	○
金井 政明	株式会社良品計画代表取締役社長	—
北村 晴男	弁護士	—
小島 秀康	国立極地研究所教授	○
齋藤 宣彦	医師	○
眞田 幸俊	慶應義塾大学理工学部准教授	—
佐野 幸男	株式会社協和エクシオ 執行役員NTT 営業本部長	○
島田 博文	コムシスホールディングス株式会社相談役	○
清水 慎一	株式会社ジェイティービー常務取締役	—
鈴木 善統	日本電子計算機株式会社常務取締役	○
高野 登	人とホスピタリティ研究所代表	—
竹元 正美	外務省特命全権大使(査察担当)	○
田中 信義	キヤノン株式会社顧問、東北大学特任教授(産学連携推進本部副本部長)	○
鶴田 康則	日本OTC医薬品協会理事長	—
童門 冬二	作家	—
徳永 保	文部科学省国立教育政策研究所長	—
飛田 紀久子	広報アドバイザー、「千曲川草誌」編集・発行	○
永澤 征治	長野朝日放送株式会社特別顧問	○
中村 健	信越化学工業株式会社取締役	○
夏目 雄平	千葉大学大学院理学研究科教授	○
幡野 保裕	郵船クルーズ株式会社顧問	—
服部 信孝	順天堂大学医学部脳神経内科教授	—
花岡 信昭	拓殖大学大学院地方政治行政研究科教授	○
飛田 和緒	料理家	—
松木 則夫	東京大学大学院薬学系研究科教授	—
丸田 義晴	財団法人全国法人会総連合事務局長	○
三神 万里子	ジャーナリスト、キャスター、信州大学経営大学院客員准教授	○
宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部長	○
持田 澄子	東京医科大学教授	—
山田 真美	作家	○
依田 巽	株式会社ティーワイリミテッド代表取締役会長	—

包括連携協定高等教育機関 連携協議会 要旨

1 包括連携協定について

長野市は、市内の高等教育機関と包括連携協定を締結し、地域づくりや各種施策において、相互に協力しています。

各校とは、毎年、連携事項の円滑な推進を図るため、連携協議会を開催しており、今年度は次のとおり開催しました。

- ・信州大学 (H22. 11. 2 開催)
- ・清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学 (H22. 11. 5 開催)
- ・長野県短期大学 (H22. 12. 21 開催)
- ・長野工業高等専門学校 (H23. 1. 17 開催)

2 懇談会の要旨

連携協議会において、まちづくりに関する発言が次のとおりありました。

(1) 北陸新幹線の延伸について

- ・北陸新幹線延伸による経済効果に期待している。長野市にとって大きなチャンスである。
- ・北陸方面の大学に長野県内の学生が流出しないよう、また、北陸方面の学生が入学したくなるような魅力ある大学づくりが必要である。
- ・北陸新幹線で金沢に行く観光客に長野に立ち寄ってもらう工夫も必要である。

(2) 産学行連携について

- ・大学や学生による調査とその活用をして欲しい。
- ・前期基本計画 重点施策「産業の集積と工業の活性化」の取組の継続が必要である。(ものづくり支援センターの活用、新産業の創出に向けた調査・研究、産業フェアの開催など)
- ・大学と行政による共同研究、合同調査の実施をしてはどうか。
- ・地域に開かれた大学づくり(図書館の開放、キャンパスの公開、イベントの開催など)を進める必要がある。
- ・高等教育機関の専門的知見をいかしてまちづくりの分析をするなど、高等教育機関と行政の連携を推進する必要がある。

(3) 長野県短期大学の4年制化について

- ・私立大学も共存できる長野県短期大学の4年制化(学部構成・定員など)が必要である。

(4) 外国人観光客について

- ・長野を訪れる外国人観光客の80%が日帰り、善光寺にも立ち寄っていない現状がある。外国人観光客への対応について検討が必要ではないか。
- ・外国人観光客への対応(外国語による案内の仕方など)について、検討が必要である。

(5) 若者の視点をいかしたまちづくりについて

- ・地元の若者のニーズに応えられるよう、若者の視点をいかす取組が必要である。
- ・オリンピック・パラリンピックを開催したNAGANOの強みをいかし、観光客に情報がいきわたるようにするなどの企画を若者から提案してもらってはどうか。